

ジュニア選手クラス / U-12 神野 SC Amizade Jr・ジュニア一般クラス 指導方針

1. コンセプト

ひとりひとりが個性を持ち、観て、考えて、判断できる、
クリエイティブでアトラクティブな選手を育成する。

- アミザージではこのクラブでサッカーを楽しんでくれている選手たちに、将来、どんな選手になってほしいのか？そして、そのためにカテゴリーごとに何が必要なのかを考え、指導していきます。
U-12においては個人の技術向上と個性を養うことを第一に考え、選手一人一人が目標を持ち、それを達成することができるよう、選手たちを育成していきたいと考えています。それはチームワークを軽視するのではなく、それぞれに個性と優れた技術を持った選手たちが協力し合い生み出すチームワークこそ最高に素晴らしいものだと考え、そのようなチームになってほしいと考えているからです。

2. アミザージが選手たちに大切にしたいと考えること

【サッカーを通じて】

①あいさつ

アミザージでのあいさつは、ことば+‘ハイタッチ’で始まります。スタッフは選手たちのその日のコンディションを確認したり、「今日も一日、がんばれよ！」の気持ちをこめて、選手たちと‘ハイタッチ’をしたいと思っています。なぜ？あいさつをするのか。選手たちにはただしななければならないからするのではなく、その時々でのあいさつにどんな意味を込めているのかを考えて欲しいと思います。そして、気持ちを自然に表現できるような選手になってほしいし、誰にでも心から気持ちの良いあいさつができるチームになってほしいと思っています。それは私生活でも同じことです。

②自分で自分の事をする

自分の事を、自分でできる人は、友達にもやさしくなれます。

「やろう！できる！」と思ってがんばろうとすることが大切！！自分に自信を持つ。

③自分で考える

やらされている環境では何も成長しない！「自分に今、何が必要なのか、そのためにどうしたらいいのか。」 そう考え、実行できたとき、サッカーでも私生活でも本当の力がつくと思います。

④グッド・コミュニケーション

コーチたちはいつも思います。自分の気持ちをハッキリ言える選手が少ないと。いい選手は自分の気持ちをコーチやチームメイトに伝えることできる。自分の思ったことを“ことば”にしよう。

“ことば”を使って、チームメイトとわかりあおう。（“ことば”を使って自分を知ってもらおう。“ことば”を使ってチームメイトを知ろう。）みんなが“グッド・コミュニケーション”できるようになれば、みんなでするサッカーがすごく楽しくなる。“グッド・コミュニケーション”目指してがんばろう。

⑤感謝の気持ちを持つ

感謝の気持ちを持っていますか。自分がやりたいことができるのは周りにいる親、チームメイト、指導者のおかげだということを忘れてはなりません。感謝の気持ちを持ってプレイしよう！！

そして、感動で恩返し！！

【サッカーに関して】

アミザージが考える育成プランでは、サッカーをする中で、自分で考えたり、楽しんだり、すごいアイデアを持ったり、チャレンジしたり、落ち着いてプレイしたりするためには絶対に“ボールを扱う技術”が大切だと考えています。だから、アミザージの選手たちには技術で魅了できる選手になってほしいと思います。特に、“ゴールデンエイジ”と呼ばれる U-12 の選手たちには“ボールを扱う技術”の大切さを知ってもらい、目先の結果にこだわらず、将来に繋がる技術の向上を最大の目的として（ぼちぼち）才能を開花してもらいたいと考えます。

①自分で考える

誰かにやらされると、いつか忘れてしまいます。自分で考えた事は一生忘れません。

誰かにやらされると、簡単だけど面白くない。自分で考えると難しいけど面白い。

自分で考え、自分から進んで取り組もうとすることで、本当の実力が養われる。そんな環境を作ること、選手が自分で考えることが出来る力を育成することがコーチの役目だと考えます。

教えすぎはコーチのオフサイド。

②サッカーを楽しむ

わくわくする気持ち、もっとボールに触りたいと思う気持ちは選手にとって宝物です。サッカーが好きで好きでたまらない選手になってほしいです。何かが出来るようになるために努力することも楽しめたらいいですね。

③失敗を恐れずにどんどんチャレンジする

チャレンジし失敗し学べばいい。失敗は成功の素！何度もチャレンジして何度も失敗してうまくなろう。

④焦らず落ち着いてやる

日々の練習の成果を試合で試せばいい。

⑤アイデアの素は周りを観ること

次の出来事をイメージ、そして実行せよ。

⑥おもしろいサッカーをしよう！

スーパードリブルで、ミラクルパスで、スペシャルなアイデアで、おもしろいサッカーをしよう！そして、観客を魅了しよう。

⑦大きな夢を持って才能を開花させよう

夢を叶えるためには、それを貫こうとする強い意志と実行力があればいい。

自分のために妥協せず自分を奮い立たせ、がんばり続けることが才能を開花させる。

3. 練習についての指導内容

【低学年】

- a. ボールを扱うことの楽しさ
- b. いろんなことにチャレンジできる体づくり
- c. 個人技術の導入

サッカー大好きプレイヤーの第一歩！ボールを扱うことの楽しさ、何かが出来るようになることの喜び、がんばることの大切さ、選手の無限の才能を開花させるのに絶対必要な宝物を選手たちにもってもらえるように指導したいと考えます。

【高学年】

- a. 個人技術の追求
- b. 個人戦術の導入

アミザージの考えるサッカー理想の選手像に必要な‘ボールを自由自在に操る能力’の育成を追求すること。そして、その能力を活かすための土台作り（グッドハビット）。

4. 公式試合・大会・練習試合の考え方

あせらず、我慢強く、ぼちぼちいこうよ！
練習でやったことを試合でやらないと宝の持ち腐れ！

【公式試合】

公式試合においては選手に真剣勝負の中で個人として、チームとしてどんどんレベルアップしてもらうために心技体を考慮した上でベストメンバーを選抜し、よりハイレベルな経験を積めるようチームとして最善の結果がでるように試合に臨みます。それはただ勝てばいいというのではなく、日ごろの選手たちの実力を十分に発揮し、最高の試合をしようとした結果、最善の結果が付いてくるようにしたいということで、内容と結果、両方を求めて加古川神野 FC としてベストな状態で臨んでいきます。選手たちにとって公式試合は、今まで取り組んできたことの成果を“魅せることができる最高の舞台”であって、最高に楽しめて、そして喜べる‘場’であって欲しいと思います。

【大会】

大会においては、その時々テーマに沿った目標を達成できるように臨みます。そして、その大会に参加した選手全員に出場機会を与え、練習試合とはひと味ちがった緊張感の中で選手を育成することを目的とします。(但し、公式試合のシミュレーションを兼ねてメンバーを選抜して大会に臨む場合がある。)

【練習試合】

練習試合においては日頃の練習の成果を発揮する機会として考えています。それは練習の延長であり、選手一人ひとりの“育成の場”であるということです。そして、その機会は普段の取り組みを考慮して選手に与えます。(但し、公式試合のシミュレーションを兼ねてメンバーを選抜して試合に臨む場合がある。)

5. 保護者の存在（保護者へのお願い）

もし時間があるなら、練習や試合を見に行ってください。
子供と楽しみの時間を共有してあげて下さい。子供もそれを望んでいるはずです。

選手たちの判断を尊重してあげましょう。
自分で判断をし、プレーをすることが、サッカーでもっとも楽しく、そして重要なことです。
外からの声で彼らの判断に圧力をかけないようにしましょう。

試合ではすべての子供達を応援してあげましょう。
自分の子供だけにならないよう、チームのサポーターになってあげて下さい。

試合が楽しかったか、エキサイティングだったか、聞いてあげましょう。
大切なのは、勝敗よりもサッカーを楽しむことです。結果だけを聞いていると、勝敗に対するプレッシャーを与えてしまいます。

クラブでの役割は指導者に相談してください。
クラブでの仕事をサポートしていただけること、特にけが等の不慮の出来事の際などは非常にありがたいことです。しかし、子供たちのためと思って行うことも、やりすぎてしまうと、時には選手が自立することの妨げとなることもあります。

身体づくりの手助けをしてあげましょう。
身体づくりには、トレーニングだけでなく、バランスのとれた食事と十分な睡眠、そして規則正しい生活習慣が欠かせません。子供たちがより楽しくサッカーができるように、身体づくりの手助けをしてあげてください。

勝敗で選手にプレッシャーをかけないようにしましょう。
コーチ達は目先の勝利よりも、一人一人の選手たちを将来に向けて大きく育てようと指導しています。
親が目先の勝利にこだわってしまうと、結局は、そのしわ寄せが子供たちにくることになってしまいます。

子供たちがサッカーをする事を刺激し、勇気づけてあげましょう。
調子のよいときだけでなく、調子の悪いときも励ましてあげましょう。
ただし、過度の期待は、子供にとってはプレッシャーとなり、知らず知らずのうちに、子供を追い詰めてしまう場合があります。
サッカーをするのは、『子供達』なのです。
子供達には、『子供』でいさせてあげましょう。

自己管理能力やモラルなど人格形成に必要なものは、まずは家庭の中で親が指導し養われていくものだと思います。親が子供のよい手本になってください。それをクラブはできる限りサポートしたいと考えています。

“選手－保護者－指導者”の三位一体でサッカーに取り組むことで、選手の人間的な成長、サッカー選手としての成長を目指しましょう。

